

《翻刻・索引》『通常物懸圖教授法』(明治十一年)

The text and a words list of TSUZYOBUTSU-KAKEZU-KYOZYUHO(1878).

大橋 敦夫
Ohashi Atsuo

はじめに

これまで、同種の資料二種について、考察を重ねてきた。すなわち、左記のとおりである。

- ① 『通常物図解便覧』(明治九年)の語彙とその性格——付、語彙索引——『学海』第十八号 上田女子短期大学国語国文学会 二〇〇二年三月
- ② 『通常物図解問答』(明治一〇年)の語彙とその性格——付、語彙索引——『上田女子短期大学紀要』第二十六号 二〇〇三年一月

今回、さらに標記の資料を入手したので、考察を深めていきたい。ついでには、語彙分析の部分が、ある程度の分量になるので、本稿では、まず、本文と語彙索引を提示することとする。

資料の紹介

書誌的事項を以下に示す(図版参照)。

『通常物懸図教授法』(明治十一年一二月刻成発売)

編集人 大月疇四郎

出版人 川又定蔵(三春書林 福島県下田村郡三春町)

見出しに内表紙。本文一七丁。一七丁裏に、刊記。和装タテ二二

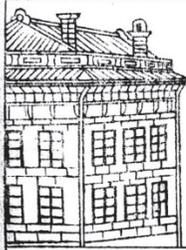
・五×一五・二cm。濃紺色表紙。

懸図を見開きで示した後に、各語の解説を見開きで行っている。

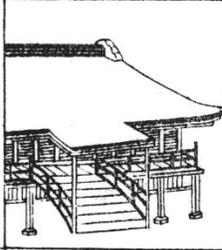
懸図は、全八枚。一図に収録の語は、二五語。よって、合計二〇〇語の解説を示している。

以下に、語彙索引を示すが、凡例は、前記拙稿に準ずる。すなわち、五〇音順で、異体字も可能な限り活字化する。

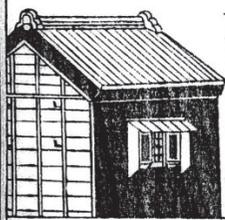
第一
通常物懸圖



煉化室



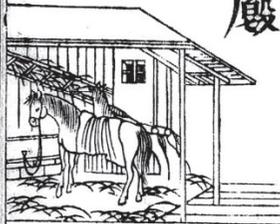
宮殿



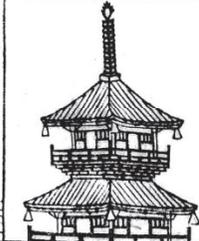
土藏



樓



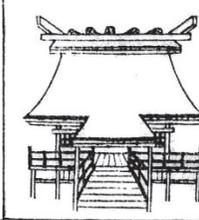
廄



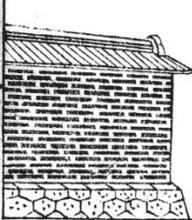
塔



門



社



塙



寺

編纂者・福島師範学校教頭 榎木寛則

通常物懸解

○第一 通常物圖解

宮 殿棟并床を高く家の前面は階なり天子或は皇族の居たり人家をりふあり
樓 家の上より又坐り高く遠く見ゆの家をり凡て二階三階等の家造あり
塔 多くの寺の境内にけり橋を幾層にも重ぬり高くなるが遠く見ゆるのあり
社 市街又は山間にけり凡て神体と安置して祭る処なり
寺 市街にもけり又山間にけり多くの山は傍て造まり凡て仏像を祭り葬式
煉 化座煉化石を以て築き玻璃窓を設けて清潔な造る家あり又石を用いて造る
土 藏四方の壁を土に塗り其の上は石灰とけり明窓を設け入口を鎖鑰と堅固にしまて
廢 屋根と壁のまじりて床を造らば此処は馬と繫ぎ置鉢と食をたる処なり
門 凡て玄関又を家の入口の前面にけり昼も開き夜も閉ぢ人の出入る処なり
塙 石を積上げ其上を瓦と土にて積み屋敷の四方の囲ともなるのあり又板を用いて造るものあり
玄 關家の表より人の出入る処にして客人来る時も此処より坐敷へ案内する処あり
窗 家の外面にけり又障子と設け凡て明を取り空氣を通じ又外方を眺望する処あり

◆『通常物懸図教授法』(明治一一年) 語彙索引◆

■ア行

アハセ	裕	表と裏との絹 <small>キヌ</small> を縫 <small>ヌヒ</small> 合せ温袍 <small>ワタイレ</small> の暖 <small>アタタ</small> か過 <small>スキ</small> るとき着 <small>キ</small> る衣服なり(六)
イケス	籩	竹 <small>カゴ</small> を以て籠 <small>ア</small> を編 <small>イキウラ</small> み此中に生魚 <small>イキウラ</small> を入れ置き河或は海水の中に沈め種々の魚 <small>タクハ</small> を貯へ置くものなり又板を以て造れるもあり(七)
イシウス	礎	石にて二面を重ね上皿 <small>ヒキス</small> を挽 <small>ヒキス</small> 回せば下皿 <small>シツ</small> の静 <small>キン</small> にすると軋 <small>コナ</small> 輾 <small>コナ</small> りて穀物等を粉末になすなり(三)
イトグルマ	紡車	臺 <small>ダイ</small> は木にて造り車を竹にて造り把手 <small>トツテ</small> を回 <small>マハ</small> して紡錘 <small>ツム</small> に糸を巻 <small>ダイ</small> 付る為の道具なり(四)
イネカケ	喬杵	枝のある木を切り両方に立て或は二三本の木を結合 <small>ダイ</small> せて臺となし之に木竹等の竿 <small>サラ</small> を掛 <small>カケ</small> て刈穂 <small>カリホ</small> をかけ晒 <small>サラ</small> す為のものなり(三)
イネコキ	拖杷	木に鉄 <small>ハ</small> の齒 <small>ハ</small> をならべ木の足 <small>イネムギ</small> をつけ稲麦などの穂 <small>ホ</small> を扱 <small>コ</small> くに用ゆるものなり(三)
ウス	臼	大なる圓木 <small>マルキ</small> の切口を凹 <small>ナカクボ</small> くほり之に穀物 <small>コクモツ</small> を入れて巻 <small>ウスツ</small> き精 <small>シラ</small> げるなり(三)
ウツバリ	梁	松杉等の丸木を用ゐて棟木 <small>ムナキ</small> を支 <small>ササ</small> へ柱 <small>ウケ</small> を受 <small>ウケ</small> たるものなり(一)

エボシ 烏帽子

アツ^{カミ} オモテ^ソ 厚き紙にて造り表面を黒く染め白き紐を付け頭上に被るものなり古代礼式の時用ぬしものなれども今は用ゐることなし(六)

エリカザリ 襟飾

ビレイ^{キヌ} 種々の美麗なる絹を以て製り洋服を着るとき頸部の飾りに用ゐるなり(六)

エリマキ 襟巻

マハカキケ^{ワタ} 柔 毛又は綿にて織り冬日寒気を防ぐ為に襟に巻着るものなり(六)

エン 椽

イタ^{ザシキ} 板を以て檐の下に造りすべて坐敷又は窗の障子の前にあり庭より昇降する処なり(一)

オシイレ 押入

ザシキ^{スミ} 坐敷の隅などに設け器物を納るるに用ゐる處をいふなり(二)

オンシツロ 温室爐

ヨウメイ^{洋名} 「ストーフ」といふ鉄にて造り寒中に火を其中に活發し室内に煖を取るに用ゆ多く西洋造りの家にて之をもちゆ(二)

■カ行

カガシ 案山子

ミノカサ^{カサ} 木又は竹を立て之に蓑笠を被せ弓矢を持たせ人の形をなして鳥をおどすものなり(三)

カギ 鑰

シヤウ^{ドウシユ} 鑰と同種の金にて製り鑰のしめを開く為に用ゐるものなり(五)

カクシ 隔子

シカク^{ケツ} 木をほそく四角に削り之をしげく組み多くは窗或は土間口に建置くものなり(一)

カケスズリ 懸硯

スミ^{カナテ} 箱を木にて造り隅には金物を打ち上方に硯筆墨水滴等を入置携帯に便利なるものなり(四)

カケヤ

榔槌

大なる圓木マルキを切り之に木の柄を嵌め木材を打ち又棟梁等を打込むに用ゐるなり(五)

カサ

笠

竹の皮管等にて造るものなり又獸皮にて製し漆にて其上を塗るもあり其形種々なり頭にかぶり雨雪をしのぎ又太陽の光線ヒカリを遮るサキ為にもちゆ(六)

カサガヒ

鐘

鉄にて造り両端を尖らして折りすべて柱桁等の合せ目の開きしを密着する為ヒラに打ち置くものなり又木と木とを連合するに用ゆ(五)

ガストウ

瓦斯燈

地下に鉄管を埋め之に瓦斯の氣を充たしめ路上処々に装置したる燈籠トウラウに其氣を通じ之に火を点すれば其氣燒て火光明晰なるものなり(八)

カセグルマ

纏車

木にて造り糸を繰返すとき巻付るものなり(四)

カタビラ

帷子

麻をほそく紡ぎて織り単へヒトに仕立暑中に着る衣服なり(六)

カツパ

襪襪

多く羅紗にて造り雨雪の日外行するときに着るものなり(六)

カナヅチ

鐘

鉄にて造り木の柄をつけ大工は釘などを打ち治工ハ金物を鍛ふるに用ゆるなり(五)

カナドコ

鐵礎

鉄にて造り金類を鍛ふるとき此上に置き鐘を以て擣つ臺なり多くは治工此物を用ゆ(五)

カハラ

瓦

土を焼きて製し屋根を葺くに用ゐるものなり(二)

カベ	壁	土に藁又麻などの細切を混和して人家の外圍を塗り風雪寒暑を防ぐものなり(二)
カマ	鎌	鎌に二種あり稲刈鎌は刃薄く芝刈鎌は重ねあかし共に鉄にて製し木柄をつけてもちゆ(三)
カマス	蒲葺	藁を二つに折り両側を縄にて縫合せ穀物等を納るるにもちゆ(三)
カミイレ	夾袋	羅紗其他種々の絹或は皮等にて製し金貨紙幣そのたの日用の小道具書付などを入れ他行のときは懷中に入れ持つものなり(六)
カミソリ	剃刀	鉄を鍛へて造り毛髪を剃るに用ゐるものなり(四)
カミダナ	神棚	人家中清潔なる処に神を祭る処にして家々に天照大御神を祭り奉る処等をいふ(二)
カミナリヨケ	避雷柱	屋根の上に銅鉄などの光りたる尖柱を建て此柱より鉄線を地上に引き若し雷火の墮るときは此柱の光氣に就て来り其線を傳て地上に墮るゆへ家屋の災を免るるなり(八)
カヤ	蚊囀	麻又は木綿にて疎く織り之を四角なる箱の形に縫合せ夏は寢処の上に釣て蚊を避るなり(六)
カラウス	碓	皿は木又は石にて造り関振子を足にて踏み杵を上下して穀物を舂くにもちゐるものなり(三)
カラスキ	犁	鉄を以て造り木の柄を嵌め牛馬に曳かせ田圃を耕すに用ゐるものなり(三)
カンナ	鉋	鉄にて造り堅木の臺に嵌め板又は木を平直に削る為に用ゆる道具なり(五)

クマデ	楸箒	竹又は鉄にて手の指を開き曲たる形に造り枝葉又は穢物をかき集むるものなり(三)
クシ	櫛	木又は鼈甲象牙等にて造り時画等をつけ女の髪飾にもちゆ又木製のものも多く毛髪を梳るに用ゐるなり細かに割たる所を齒といひ其上方の厚き所を胸といふ(四)
クサリ	鎖	金銀アルミル鉄等にて製り懐中時計等に付るものなり又鉄製の大なるものは蒸気船其他のものを繋ぎ留る等に用ゆ(五)
クギヌキ	千鈞	鉄にて造り上の口にて釘の頭を挟みて釘を抜くに用ゆ(五)
クギ	釘	鉄にて造り一方を尖らしすべて板木等を打着るに用ゐるものなり(五)
キンチャク	荷包	多く羅紗にて製し表面には金銀其他種々の色糸を以て種々の縫模様をなし此中には神仏の符を入れて児童の帯などに結付るものなり(六)
キリ	錐	鉄にて造り其形ち釘の如く板木に揉通す為の道具なり(五)
キネ	杵	木にて造り臼に入る所の穀物を搗くものなり(三)
キウデン	宮殿	棟井に床を高くし家の前面階あり天子或は皇族の居たまふ家をいふなり(一)
カンバン	招牌	其形種々あれども多く八板にて造り賣品の名又屋号姓名等を記し人の目標とす(二)

ケイキキウ

軽気毬

俗に之を風船ソク フウセンといふ竹又は籐トにて造りたる船の上に布囊ヌフクロを装置シカケし之に瓦斯ガスの氣を充たしめ空中ハナに放ち風に任せ其船中に乗る者機関カラクリを攬トリて自在ジザイに飛行ウし下界ハカを測り敵陣ウカガを窺う等に用ふ(八)

ケタ

桁

松杉檜等の木を四角ケツに削り柱と柱との間に架カしたる木をいふなり(一)

ケムリダシ

煙突

鉄又は瓦カハラにて圓筒形マルキツツアリに造り臺所ダイドコロ或は焼火場の屋根の上に置いて煙ケムリを噴フカすものなり(一)

ゲンクワン

玄関

家の表ヨモテにあり人の出入する処にして客人キヤクジン来る時は此処より坐敷ザシキへ案内する処なり(一)

ケンビキヤウ

顕微鏡

種々の水晶鏡スイショウスイカネを装置シカケし細微コクモロカの物を見るときは其形数百倍に見ゆるものなり(八)

コタツ

巨燵

木を以て矢倉ヤクラを組み小炉コロの上に置き蒲團フトンを其上オホに覆ひ火を炉中に入れ寒中には手足アタタを煖アタタむる為ニに用ゆるものなり(二)

コテ

泥鍔

鉄にて造り木の柄エを嵌ハめ土壁ツチカベ又竈カマド等を塗るとき土を塗る為ニに用ゆる道具なり(五)

コバ

構

杉スギ又栗クリなどの木を薄ウスく割サき屋根ヤネを葺フくに用ゐるものなり(二)

コモ

薦

藁カにてあみ両端アラモテを剪キらず荒物アラモノを包み穀物コクモノ等を包むに用ゆ(三)

コリ

行李

柳ヤナギ又ハ竹タケにて造り種々の物シユシユを納イるるに用ゆ旅行等リョウリョウに携タぶる由ヨリて行李リョウリョウの名なりといふ(二)

コンパス

互更針

鉄鎮鏃等テツチンソクにて造り兩脚リョウキョクの先サキを尖トガらし図引ズヒキにもちゐるものなり(四)

■サ行

サイツチ 柶椽
木にて造りすべて道具などを打込み又紙などをつつに用ゆ金類を打には用ぬす(五)

サイフ 財布
絹木綿等にて囊に縫ひ金銭などを納るるものなり(六)

ザウリ 草履
藁を以て製り板の間或は庭土間などを歩行するとき用ゆるものなり(六)

サジ 羹匙
錫又陶器の物おほしすべて食料の汁物を吸ふ為に用ゐるものなり(七)

サシガネ 矩
鉄又は鎮鑰にて造り尺寸分の目を彫り直角又は平面の器物を造り又図画を記すにもちゆ(四)

サデ 趕網
麻糸を以て編み竹又は木の柄を付け魚類其他水中の物を採るに用ゆ(七)

ジテンシヤ 自轉車
鉄を以て製造し人之に跨がり足にて車の羽を踏み手に楫をとり自由に道路を行くなり(八)

ジャウキシヤ 蒸気車
石炭を焼き釜中の水を沸騰せしめ其氣勢を藉て機関を運轉せしめ数多の乗車を連続して鉄道の上を

行く車なり其迅速なること概ね一時間に国に十里を行くといふ(八)

ジャウキセン 蒸気船
石炭を焼き釜中の水を沸騰せしめ其氣力を以て種々の車輪を運轉し此装置を船室に設け自在に水上

を駛る船也此船ハ西洋の發明にて今我國にても製造す又順風には蒸氣を用ぬ帆にて駛るもあり

(八)

シヤウジ 障子 ホツ
細き板を組立て之を骨ホネといふ骨に紙を張り多く家の便宜ビンギの処に立てて風を遮り明をとるサシキ(二)

シヤクシ 杓子 メシ
木にて造り飯を盛り或は汁アルイなどを汲むに用ゆシル(七)

シヤシンケウ 写真鏡 メガネ
箱の中に水晶の鏡を仕込み此箱の前面に人物或は種々の物を置き此箱の中の鏡に照し別に葉を塗りたる鏡を入れ前面にある物を写し取る器械なりウツ(八)

シヤモノ 毛襦 ケヨリモノ
洋名「ジウタン」といふ毛織物にて軽煖カロクアタタカなり多く坐敷の敷ものとすザシキ(二)

シンシ 簇 ケツ
竹をほそく削り両端を尖らし帛類レウハシを晒すとき乾縮せぬ為キヌレイに用ゐるものなりサラ(四)

シンブンシ 新聞紙 フレ
諸官省布告又は世上の珍事物價表廣告社説等を鉛字にて日々刷行し人の聞見を廣くする有益のものなりチンジサウバ(八)

ジンリキシヤ 步輦車 クルマヒキ
両輪ありて挽夫之を曳き一人又は二人を載せ道路を行く車にして明治中我国の發明なりハツメイ(八)

スキ 鋤 テツ
鉄を以て造り木の柄を嵌め田圃を耕すに用ゐるものなりツク(三)

スミツボ 墨斗 クルマ
木にて造り車を仕込み之に糸を巻付け其糸を墨斗の中に通し糸端に小さき錐イトサキを附け板又は木等の長きものを平直に截るときは此墨系にて黒線を引くに用ゆるものなりタヒラ(五)

スミトリ 炭斗 ト
竹又は籐或は木にて造り炭を納るる為のものなりスミ(七)

スリウス 確 ソトガハ
木にて造り外面を竹にて編み稲の粃アを摺り除くるに用ゆモミ(三)

スリバチ

播盆

土を焼きて造り内部に織絡を刻み播木を以て食物を粉碎(コナス)するものなり播木は木にて造り播盆の中に入るるものを播る棒なり(七)

セイウシン

晴雨針

外囲は銅又は鍍銀等にて造り中に種々の機関を設け又玻璃管に水銀を充たし此水銀気候の変化に従て昇降し前面の針を動かす故に風雨晴などの機を前に示す為のものなり(八)

セキバン

石盤

石を平らに薄く切り木の縁をつけ洋算又は書画等を記すものなり石筆は柔質の石にて造り之を用ゐて石盤に書くものなり(四)

セレイフク

小禮服

黒羅紗にて造り祭式日には官民ともに用ゆるなり(六)

センヌキ

酒鑽

鉄にて造り尖頭を螺旋らし木の柄を嵌め酒壺の塞子を抜くに用ゆ(七)

ソクリヤウキ

測量器

木の臺の上に鏡を装置し是より前方の目標を望みて道路の里程田圃の丁数等を量り知るものなり此鏡の傍には度数等を刻したる種々の器械あり(八)

■タ行

ダイレイフク

大禮服

羅紗を以て造り金銀或は(モール)にて胸襟袖等に飾を縫ひ付け祭日式日等には官員の礼服とせり飾りは等級によりて多少の差あるなり又袴の色は勅奏判任皆異なり(六)

タカドノ

樓

家の上に又一坐あり高くして遠く見ゆる家をいふ凡て二階三階等の家造なり(一)

タタミ

畳

藁カを編アみて表オモテとなし藁ワラを以て床トコを造り之を縫ヌヒ合アせて人家シキモノの敷物となすものなり(二)

タタラ

踏躰

石レンゴク又は煉化石レンゴクセキを積立ツミて足アシにて踏フ板イタを踏フみその氣を以て火カを活キ発キしすべて堅質カタキの金類カネ或は多量オホシの金類カネを鍛トカすに用ゆるものなり(五)

タビ

足套

白黒オホの二種あり木綿オホにて縫ヌひ寒中オホには足アシに覆フふものなり又我國オホの俗オホにては儀式ギシキの時トキには寒暑カカに拘カはらず足套オホを用ゐたり(六)

タフ

塔

多くは寺オホの境内テラにあり檐ケイダイを幾層イキソウにも重ねて高くのぼり遠く見ゆるものなり(一)

タルキ

椽

木キをほそく四角シカクに削ケツり桁ケタより桁ケタに架ウし天井板ウツ等を打ち着ツくる木キをいふ(一)

チキウギ

地球儀

圓マロき形カタの物モノを造り其表面シヤウに地球コクケウ上の水陸スイリク或は國疆コクケウ等を記キし又經緯ケイレイの線センを引き度数タニを示し地球運轉コクケウの理リを説明セウメイす為タメに用ゆるものなり(八)

チギリ

膝

木キにて造り織オリるべき糸イトを卷マク付置ツケ之ノを機架ハタの後方ウシロにかけ織オリるに隨ツて糸イトを送り出す為タメのものなり(四)

ヂヤウ

鏢

真鍮銅鉄シンチュウ等トウにて造り扉ツク又は箱ハコなどのしまりに用ゆるなり(五)

チリハラヒ

拂塵子

鳥毛トリゲ或は紙片カミキレを束ツガね竹ツガ又は木キの柄ユヒツを結ユヒツ付け器物キョク又は坐敷チリ等の塵汚チリをはらふに用ゆる(七)

ツキン

頭巾

羅紗ラシヤ又は絹等キヌにて製ツクし頭カブに被カり首カブをおほふものなり多くは寒中病中カブなどにもちゆ(六)

ツツラ

葛籠

多く竹タケを以て編アみ上面ウツラに紙カミを張ウり漆ウルシを塗ヌり衣服等イを納ケイタイれ携帶ケイタイに便イなるものなり(二)

ツム 紡錘

鉄の細長き針ホソナガハリを造り之を糸車イトクルマにしかけ車を回して糸を巻付マキツクるなり(四)

ツリ 釣

鉄鉤テツバリに餌エバを刺し細き糸サにて釣竿ツリサボに結付け水中に投じて河海の魚を釣ツるなり(七)

デウギ 定規

椀カン又は椀等の堅木ケヤキを以て平直カタキに造り物を截タつとき之を標準メアテとして切キるものなり(四)

テオノ 鉦

鉄にて造り木の柄エを嵌め板ハ又は木材等の荒削りアラケツリをするに用ゆ(五)

テツダウ 鐵道

平直マツスグなる道に並行ニホンの鉄軌テツミチを連続し蒸氣車マツスグを通行せしむるものなり鐵道中便宜の処ステイシヨに停車場ノリテあり乗客

昇降する処なり(八)

テラ 寺

市街シヨにもあり又山間にもあり多くは山に傍ソビて造れり凡て仏像ブツゾウを祭マツり葬式サウシキを行ふ処なり又境内マタケダイにも墓ハカ

所あり(二)

デンシンキ 電信機

越歴エレキの装置シカケを以て銅線ハリガネを遠く連架レンカし之に其氣キを通ずれば瞬間マタタウヒマに其事コト由ユを千百里チヨウリの遠きに達タツす(八)

テンゼウ 天井

座ザの上の椀タルキに板イタを打ちつけ或は紙カミを張り或は石灰シッコウイにて塗ヌるもあり屋根裏ヤネウラの塵チリを防ぎ又洋燈フセを釣ツる処

なり(一)

テンモンダイ 天文臺

地上チノウチに高き木の臺ダイを築キき是に大なる望遠鏡ケインギョウを装置し之より天を望みて日月星の形象等ケイシヤウを見るものな

り(八)

ト 戸

板イタを以て造り人家タテラの出入口アケナシサイに建置キき開閉自在ヒルヒロキならしむ多くは昼開ユルて夜閉ツづるなり(二)

トイシ 礪

種類数多あり通例用ゐるものは荒砥青砥天草名倉等なり(五)

トウアミ 投網

麻或は蚕の糸にて編み周辺に鉛又は石の重りを結付け糸は洪を以て染め魚を捕るに用ゆ(七)

トウグハ 唐鍬

鉄にて造り木の柄を嵌め土をほるに用ゆるなり(三)

トウミ 風扇車

木にて箱を造り車をつけ此車扇にて糠と穀とを分簸するものなり(三)

トウメウダイ 燈明台

海岸又は島嶼の上に高く臺を築き夜間其上に燈火を点じ海上通船の目標となすものなり(八)

トウメガネ 望遠鏡

管中に数箇の水晶鏡を嵌め之より遠方を望めば其物体明了に見ゆるものなり凡て鏡管は伸縮自由なるものに作るなり(八)

トウロ 燈籠

其形種々あり玻璃を用ゐて造り燈火を其中に点じ坐敷又は椽側などを照すに用ゆ又石或ハ木にて作れるものは道路或は庭砌を照らすに用ゆ(二)

トゾウ 土蔵

四方の壁は土にて塗り其上に石灰をつけ明窓を設け入口を鎖鑰を堅固にしすべて宝物あるひは種々の所有物を入置火難盗難を防ぐ為のものなり(一)

トダナ 戸棚

木にて造り前面に戸を入れ坐敷に置くものは書冊其他の器物を入れ臺所に置くものは膳碗等を入れ置くものなり(七)

トビラ	扉	板にて造り鉄又は銅の飾り金物をうちて左右にひらく戸なり多く神社仏閣の入口又は城門大門等に用ゐたるものなり(一)
ドヘウ	土豚	俵の中に土石砂等を入れ川岸など土の崩れ易き処を防ぎ又戦地にては胸壁に用ゆ(三)
■十行		
ナガグツ	長靴	通常の靴より踏込長くして膝骨の下まで入れ凡て雨雪の日外行するに用ゆ(六)
ナガモチ	長持	木にて造れる大なる箱にて衣類器物等を納るる為に用ゆるなり(二)
ナハ	縄	藁を以て長く緬ひ種々のものを束ね其他百般の用に供す(五)
ナルコ	鳴子	竹を短く切り之を数多く板に結付け田圃の上に張置き鳥雀等の蒔種又は穀物を食ふときは之を引 <small>ヒ</small> き鳴して追ひ逃す為のものなり(三)
ニクサシ	叉手	多く白銅にて造れり禽獣魚肉等を刺して食ふ為のもの但し西洋の料理に供ふ(七)
ニグルマ	荷車	両輪ありて上の荷物其他種々の物品を載せ運送するものにて人の力を以て推し行くなり(八)
ニナヒオケ	擔桶	板を丸く組み竹輪を嵌め両方の角に縄を通し棒にて擔ぎ水などを運ぶに用ゆ(三)
ネズミトリ	柵	鉄線或は銅線にて編み内に機關をしかけ鼠を擒ゆるに用ゆ(七)

ノキ 檐

屋根のすへの終る処にして雨滴の落る処をいふなり(一)

ノコギリ 鋸

鉄を薄く展べ鑿を以て齒を刻み木の柄を嵌め木材又板などを截る為に用ゐる道具なり(五)

ノミ 鑿

鉄にて造り頭に刃を設けて先きに衝き切るものなり多く木材などに穴を鑿るに用ゆ(五)

ノレン 簾帷

商家などの表口にかけ屋号姓名等を記し目標にするものなり多くは木綿を染貫て作るものなり(二)

■ハ行

ハカリ 秤

棹は木又は象牙等にて製し目方の標点を施し一方に金の皿を釣り一方には金類の錘を附け凡て量る

べき物を此皿にのせ把手の糸を持って物の軽重を秤り定むるものなり(四)

ハシ 箸

金銀木竹又は象牙等にて造り食物を夾み食ふ為のものなり(七)

ハシゴ 階子

木を以て造り一階一階に高くなり宮殿樓閣などの昇降の処に用ゐる踏段なり又梯子は階より手輕にして便宜の処に持行き之をつけて昇降するを得るものなり(二)

ハシフネ 端舟

巨船に附属したる小船なり上陸或は運糧等のときは櫂又は櫓にて盪ぎ往來に便するなり(八)

バシヤ 馬車

一匹乃至四匹の馬に曳かせ車中に人を載せて道路を行く車なり(八)

ハシラ 柱

多くは松杉檜等の木を四角に削り家の骨となり梁桁等を支ゆるものなり(一)

ハタ 機

木にて造り種々の装置ありて絹或は木綿を織る道具なり(四)

ハハキ 箒

竹枝或は黍穂を以て造りたるものは多く土間庭などを掃くに用ゐる藁或は棕櫚毛を以て造りたるものは竹の柄を附け坐敷を掃くに用ゆ(七)

ハリ 針

鉄にて造り一方を尖らし一方に小さな孔をあけ之に糸をとほし衣服等を縫ふものなり(四)

ハリバコ 針箱

木にて造り抽斗をつけ裁縫の道具を入れ箱の上に綿又は毛を入れたる針指を付るなり(四)

ヒ 杼

木にて造り中に穴を穿ち其間に巻糸を入れ織物をするとき緯糸を入るるに用ゐるものなり(四)

ビードロカガミ 玻璃鏡

大なる玻璃の裏に水銀を塗り縁は木にて製り金或は銀色に塗りすべて身体を映写し見る為に柱或は鏡架にかけ置くものなり(八)

ヒウチダウゲ 燧具

燧金は鉄にて造り之を以て燧石に軋摩し火綿を持そへて火を出す道具なり(七)

ヒサシ 庇

檐の先に又板を用ゐて葺出し多くは窓の上において雨雪を支ゆる為のものなり(一)

ヒタタシ 直垂

多くは精好を以て造り古製の礼服にして位階に因り其色或は紋等の差ひあるものなりしが今代は用ゐることなし(六)

ヒノシ 鉛鋸

銅又鎮鋸にて造り木の柄を嵌め火を入れ帛類の皺を伸す為のものなり(四)

ヒバシ 火鉗

鎮鋸銅鉄の類にて造り火を挟むに用ゆるものなり(七)

- ヒバチ 火爐 木にて造り中に銅炉を入れ其中に灰と火を入れ湯を沸し食物を煮手を焔る等に用ゆ(七)
- ヒフキダケ 吹火筒 竹にて造り後の節に小さき穴をあけ火を吹く為用ゆ(七)
- フイゴ 橐籥 木にて造り把手を出入すれば箱の前後の穴より空気を吹き火を活発すに用ゆる道具なり多くは冶工カシヤ 鑄懸師など之を用ゆ(五)
- フクサ 𦵏 ヒトノ 単に造るもあり又裏絹を着るもあり凡て良き絹にて製し衣服物を包むにもちゆ(六)
- フスマ 紙障 障子の如き骨を紙にて両面を張り多くハ坐敷との間に立てて彼是相見へざるために用ゐるものなり
- ブツダン 仏壇 (二) 家々祖先を祭る棚にて先祖代々の位牌を安置する処なり今我國の俗多く之を用ゆ(二)
- フミグルマ 龍骨車 木にて造り車をしかけ水中に置き足にて踏み回し溝等の水を田圃へ送る為のものなり(三)
- フロオケ 風呂桶 板を合せて囲となし竹輪或は銅輪を以て束ね鉄又は銅の釜を傍に設けて火を其中に焚き水を温めて身体を清浄にするに用ゆ其形種々あり(二)
- フロシキ 袱 絹又は木綿にて製し種々の花紋を記し物を包み携帯するに用ゆるものなり(六)
- ブンチン 文鎮 石又は金類にて造り机上の紙などを押へ置くものにして其形種々あり(四)

ブンマハシ

規

鎮鑰又は竹にて造り両脚の一方を尖らし一方に墨水を含ませ圓径の図を画くにもちゆるなり(四)

ヘイ

塀

石を積上げ其上を瓦と土にて積み屋敷の四方の囲となすものなり又板を用ゐて造るもあり(一)

ペウフ

屏風

紙障のごとく木を組み骨とし紙を張り屈膝を施して曲折を得せしむ家中便宜の所に用ゆ屏風に二曲六折八幅等のものあり(二)

ボタン

扣鈕

銅又は種々の金にて造り種々の花紋等を彫り付け礼服或は通常の洋服の胸部を閉ぢ又飾等に用ゐるものなり其他玉材貝殻等にて造れるもあり(六)

ホマヒセン

帆舞船

蒸気の装置なく只順風に帆をひらき水上を駛るなり其船形は蒸気船に似たり然れども二檣或は三檣の船なり(八)

ポンプ

唧筒

皮の長き囊を作り其一方を木製の大なる箱に通し此箱に水を入れ機械を推して其水を囊より思ふ処に迸出し凡て火災を鎮め或は甲板道路等を洗ふに用ゆ(八)

■マ行

マクラ

枕

木の臺の上にそばがら又は粃などを入れたる袋を結付け頭を載するものなり又臺なくして大なる袋のみを用ゆるもあり(六)

マド

窗

家の外面にて戸又は障子を設けて凡て明を取り空気を通はし又外方を眺望する処なり(一)

マナイタ

肉几

木にて造り肉類菜類を載せて切るときの臺になすものなり(七)

マンガ	秒把	木槿 <small>ワク</small> に鉄 <small>シ</small> の疎 <small>マダラ</small> なる齒 <small>ハ</small> を嵌 <small>ハ</small> め秩 <small>トキ</small> を挿 <small>サキ</small> む期 <small>ヒ</small> に先 <small>タノツチ</small> だち之 <small>マゼル</small> を牛馬 <small>ヒ</small> に曳 <small>ヒ</small> かせ田土 <small>マゼル</small> を混和 <small>マゼル</small> するにもちゆ <small>(三)</small>
マンリキ	萬力	鉄 <small>テ</small> にて造り螺旋 <small>ネヂ</small> を回 <small>マウ</small> し上方 <small>ハサ</small> を開閉 <small>ハサ</small> してすべて細工 <small>ハサ</small> すべきものを夾 <small>ハサ</small> み螺旋 <small>ハサ</small> にて動か <small>ハサ</small> ざるやうにしめつけ るものなり <small>(五)</small>
ミ	箕	細 <small>ホツ</small> く割 <small>ワ</small> たる竹片 <small>タケ</small> 藤蔓 <small>トツル</small> にて編 <small>ヌカ</small> み穀物 <small>ヒヨウ</small> の糠 <small>ヌカ</small> を簸揚 <small>ヒヨウ</small> するに用 <small>ヒヨウ</small> あるなり <small>(三)</small>
ミス	簾	竹 <small>タケ</small> を細 <small>ホツ</small> く割 <small>ワ</small> り之 <small>ヲ</small> を糸 <small>イト</small> にて編 <small>ア</small> み家 <small>アヒ</small> の内外 <small>ヒト</small> の際 <small>ウカガヒミ</small> に垂 <small>ヒト</small> れ人の <small>サスキ</small> 視 <small>サスキ</small> 見るを遮 <small>サスキ</small> る為 <small>サスキ</small> のものなり <small>(二)</small>
ミズイレ	水滴	金類 <small>カナレイ</small> 或は陶器類 <small>ヤモモノレイ</small> にて造り硯 <small>タケウ</small> へ入る水 <small>タケウ</small> を貯 <small>タケウ</small> へ置くものにして其形種々あり <small>(四)</small>
ミツガメ	水瓶	土 <small>ヤ</small> を焼 <small>ヤ</small> きて造り水 <small>ツク</small> を入れ置くものなり <small>(七)</small>
ミツグルマ	水車	大なる木製 <small>カハナカ</small> の車 <small>シカケ</small> を河 <small>カハナカ</small> 中に装 <small>シカケ</small> 置し水 <small>シカケ</small> の流 <small>シカケ</small> るるに従 <small>シカケ</small> て車輪 <small>ウツ</small> を轉 <small>ウツ</small> じ其車軸 <small>ウツ</small> を一方 <small>ウツ</small> に通 <small>ウツ</small> じ碓 <small>ウツ</small> を舂 <small>ウツ</small> かせ或は 種々 <small>カラクリ</small> の製作 <small>カラクリ</small> の機関 <small>カラクリ</small> を運轉 <small>カラクリ</small> せしむる等 <small>カラクリ</small> の用 <small>カラクリ</small> になすなり <small>(八)</small>
ミノ	蓑	藁 <small>シユロケ</small> 或は棕櫚毛 <small>シユロケ</small> などを以て造り雨雪 <small>キ</small> の日着 <small>キ</small> るものなり多くは農家 <small>ノウカ</small> は之 <small>ノウカ</small> をもちゆ <small>(六)</small>
ムシロ	筵	藁 <small>ワラ</small> にて細 <small>コマ</small> かに織 <small>ヨ</small> り両端 <small>レウハン</small> をあみつけ穀物 <small>コメ</small> 其他 <small>レウハン</small> の物 <small>コメ</small> をさらし或は包 <small>ツツ</small> むに用 <small>ツツ</small> ゆるものなり <small>(三)</small>
ムネ	棟	屋根 <small>テウジヤウ</small> の頂上 <small>テウジヤウ</small> にして瓦 <small>ツミヤケ</small> を積 <small>ツミヤケ</small> 上たる処 <small>ツミヤケ</small> 又梁 <small>ハリ</small> の上に横 <small>ヨコ</small> りたる大木 <small>ヨコ</small> をいふなり <small>(一)</small>
ムマヤ	厩	屋根 <small>ヤネ</small> と壁 <small>カベ</small> のみにして床 <small>ユカ</small> を造 <small>ユカ</small> らず此処 <small>ツナ</small> に馬 <small>ツナ</small> を繫 <small>マクサ</small> ぎ置 <small>クラ</small> 株 <small>クラ</small> を食 <small>クラ</small> はず処 <small>クラ</small> をいふ <small>(一)</small>

モッコ

畚

繩にて網の目の如く編み両方に長き紐をつけ土砂塵汚物などを盛り擔ひ運ぶものなり(三)

モノサシ

裁尺

竹にて造り寸分の目を彫り帛類を裁つとき寸法を量るものなり(四)

モミフルヒ

糶篩

金網を以て竹と棕櫚毛にて編みたる圓輪の底となし糶と米とを篩ひ分るものなり(三)

モン

門

凡て玄関又は家の入口の前面にあり昼は開き夜は閉ぢ人の出入する処をいふなり(一)

■ヤ行

ヤゲン

薬研

鉄にて造り多くは薬劑等の物を粉末にする道具なり(五)

ヤシロ

社

市街又は山間にあり凡て神体を安置して祭る処をいふ(一)

ヤスリ

鑢

鋸鉄にて造りすべて金物を擦り又は鋸の刃を尖らす等の道具なり(五)

ヤナ

築

竹を簾の如くに編み之を河瀬の間に装置し河魚の流れ来りて此築に懼るを擒る為のものなり(七)

ヨツデアミ

提督

麻糸にて四角に編み四隅に竹を付け此竹を中央に束ねて竹又は木の柄に結付け此督を水中に沈め置

河中の魚を引上げ擒るものなり(七)

■ラ行

ラウカ

廊下

家と家との離隔したる間に造り彼方より此方へ容易く通行する為の処なり(一)

ランカン 欄干 エンガハ ハシ
木にて造り楼上の椽側および橋梁の危険なる所を遮るに用ゐるものなり(二)

ランプ 洋燈 ビードロ カネ
ガラスと金にて造り石炭油を注ぎて火を点し家室を照らすに用ゆ近來繁花の地にても家ごと用ゐざる処なし(二)

リングワシツ 煉化室 リングワセキ
煉化石を以て築き玻璃窓を設けて清潔に造る家なり又石を用ゐて造るもあり西洋各国は皆この建築なり(一)

ロクロ 轆轤 アサ カハ ヒモ シンギ
木にて造り麻又は皮の紐を軸木に巻付け此軸木の一方に削るべき木材を打着紐を引けば軸木回旋するゆへ削刀を用ゐて圓き器物を細工する道具なり(五)

■ワ行
ワク 稱 マキツケヲ
木にて造り糸を巻付け置くものなり(四)

ワサビヲロシ 薑擦 アカガネ ヤキモノ セウガ
銅又は陶器にて造り薑大根等の野菜を擦すに用ゆ(七)

ワタイレ 温袍 オモテ キヌ ヲウ
冬服なり表の絹と裏の絹との間に綿を入れ身体を温暖ならしむる為の衣服なり(六)

ワタクリ 攪車 クツツケ
木にて造り二ツの丸木を密接し之を一方より回し綿絮を放し綿実を繰出す為のものなり(四)

ワラジ 草鞋 カカト ヒモ
藁を以て製り踵の処に紐を設け山行あるひは遠行等のときに紐にて足に結付け歩行すれば甚だ輕便なるものなり(六)

ヲサ 箴 ウス コマカ ケツ
竹を薄く細に削り之をしげく組み機を織るとき之に経糸をとほして緯糸を打入るるものなり(四)